

## 市立小・中学校の適正規模・適正配置の取組に係る説明会実施結果

## 1 目的

市立小・中学校の適正規模・適正配置の取組について、今後、学校の統廃合を含めた方策を検討する学校・地域において、市の適正規模・適正配置についての基本的な考え方、各学校の現状、学校・地域ごとの方策の方向性（案）等について、保護者や地域の方々に周知を図るもの

## 2 実施結果概要

日程	学校・地区	時間	会場	参加者数
10月10日(月・祝)	小鮎小	《全会場共通》 [1回目] 10時～ 11時30分 [2回目] 14時～ 15時30分 [3回目] 17時～ 18時30分	小鮎小 体育館	32人
〃 16日(日)	飯山小		飯山小 体育館	49人
〃 23日(日)	森の里小		森の里小 体育館	84人
〃 29日(土)	荻野小		荻野小 体育館	58人
11月 3日(木・祝)	鳶尾小		鳶尾小 体育館	53人
〃 6日(日)	森の里中		森の里中 体育館	34人
〃 19日(土)	愛甲小		愛甲小 体育館	42人
〃 20日(日)	玉川中		玉川中 体育館	11人
〃 23日(水・祝)	上荻野小		上荻野小 体育館	58人
〃 26日(土)	毛利台小		毛利台小 体育館	56人
〃 27日(日)	玉川小		玉川小 体育館	59人
			合計	536人

### 3 意見等概要

No	意見種別	件数	内容
1	取組の考え方・進め方・スケジュール	133件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校規模適正化の検討に当たり、教育的な観点に加えて、地域コミュニティや財政的な内容が記載され、様々な観点から検討するという内容になっており、検討が前進したのかなと感じる</li> <li>・現状で穏やかに生徒が過ごしている中で、統合によって大きな学校に行くとデメリットが大きいと感じる。もし統合を検討するなら客観的なデータを示してほしい</li> <li>・児童間でトラブルが起きた際に、1学年1学級だと対応に課題が多いと感じるので、複数学級の方が望ましい</li> </ul>
2	教育環境	66件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小規模校のメリットの「教員の目が行き届きやすく、きめ細かな教育指導を受けやすい」とデメリットの「児童・生徒の人間関係や相互の評価などが固定しやすい」について、どちらを優先するものなのか</li> <li>・それぞれの地区に学校は必要。やはり子どもたちは地域で育つことが重要であり、そういったアイデンティティを育てるのが教育ではないか。地域ごとの良さにもっと着目してもらいたい</li> <li>・教育環境は一律にしていくべきではない。小規模校でも教育的なマイナス面を感じず、むしろプラス面を感じている</li> <li>・小・中学校の一貫教育について、どこまで検討が進んでいるのか</li> </ul>
3	通学関係	43件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校低学年で、重いランドセルを背負って通学距離の上限を歩くのは難しいのではないか。スクールバスの運行など、児童が安全に学校に通える環境の整備を第一に考えてもらいたい</li> <li>・望ましい通学距離・時間の上限について、小学生は低学年と高学年にわけて、中学生、小学校低学年、小学校高学年それぞれ毎分何kmで換算するのが妥当なのか、細かく計算してほしい</li> </ul>
4	地域づくり・コミュニティ	21件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域が高齢化を迎えるに当たり、小・中学校が持つ地域の拠点としての機能がとても大切であるため、子どものためという視点だけではなく、地域をどのようにデザインしていくかという視点でぜひ考えてもらいたい</li> <li>・地域の防災拠点が必要だと考えるので、学校施設の跡地については危機管理担当課を含めて検討してほしい</li> </ul>
5	その他	41件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市として子育てを推進しているのであれば、他県から若い子育て世帯を呼び込む対策を取るべきである</li> <li>・現在国が35人での学級編制を進めているが、資料に記載されている推計などは、中学校まで35人学級編制になるという前提で作成しているのか</li> </ul>
合計		304件	